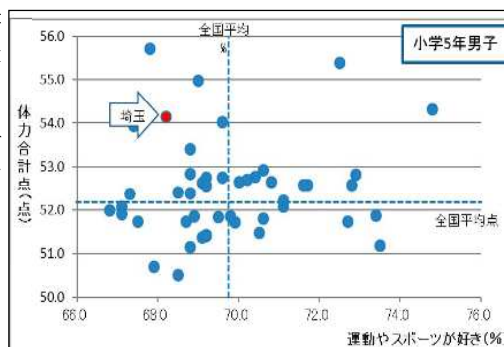


令和4年度調査結果から見える取組の成果と課題

1 本県の児童生徒の体力（実技）の数値はやや低下したものの、全国的に高い数値を維持

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果において、小・中学校において体力合計点、総合評価に係る数値は全国と比較して非常に高い。これらは、各市町村や学校において、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めつつ、授業研究会や研究協議会等で子供が主体的に運動する授業づくりを真剣に取り組んできた成果である。また、体力プロフィールシート等を活用して個々の体力の課題に応じた取組を行ったことや、これまでの各市町村、学校における体力向上推進委員会を中心とした体力向上に係る計画的、継続的な取組の成果である。



【参考】体力合計点と運動・スポーツ好意度の関係（小5男子）

○しかしながら、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果における令和4年度と3年度の本県の平均値と比較すると体力合計点は、全国の平均値と同様に低下した。また、本県児童生徒の新体力テストについても令和3年度と比較すると、全体的に低下している。この要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響等により生活習慣が変化し、スクリーンタイムの増加等に伴い、肥満傾向児童生徒の増加や慢性的な運動不足が生じていることが推察される。また、マスク着用中の激しい運動の自粛や業前・業間運動や体育的行事の精選等により、学校における全体的な運動量の減少が少なからず影響している。

1 「運動やスポーツをすることは好きですか」 （「好き」・「やや好き」の割合）		
	男子	女子
R4 小学5年生	91.5%	84.3%
R4 中学2年生	87.0%	76.0%
R4 高校2年生	85.9%	73.6%

2 運動好きな児童生徒の育成を継続

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査から、「運動・スポーツが好き」「体育・保健体育の授業は楽しい」という児童生徒の割合は、令和3年度同様全国と比較して低い結果であった。また、令和2年度から高等学校段階における体育・健康等に関する指導等の更なる改善に役立てるため、高校2年生の全生徒を対象に、運動の好意度等調査を実施したところ、令和3年度と比較すると高校2年生男女共に、「運動・スポーツが好き・やや好き」「保健体育の授業は楽しい」の割合も減少している。

2 「保健体育の授業は楽しいですか」 （「楽しい」・「やや楽しい」の割合）		
	男子	女子
R4 小学5年生	93.8%	89.4%
R4 中学2年生	87.6%	81.5%
R4 高校2年生	79.1%	73.6%

※ 高校は定時制・通信制を含む。

○体育・保健体育科の目標である「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現する」ためには、運動やスポーツを好きになることがきわめて重要である。そして「運動・スポーツが好き」の入り口は、やはり体育授業である。児童生徒が発達の段階と運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わう体育授業の充実や運動習慣の確立をはじめ、運動好きな児童生徒の育成を視点とした取組を引き続き推進していく必要がある。

体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっており、「生きる力」の重要な要素である

（小学校学習指導要領解説体育編・中学校学習指導要領解説保健体育編・高等学校学習指導要領解説保健体育編 体育編）

埼玉県の目指す体育授業

「学習規律を確立させ、力いっぱい運動し、
思いっきり汗をかく『楽しい』体育授業」

体力向上の方針

児童生徒一人一人の課題に応じた取組により、総合的な体力向上を目指す。